

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270200967		
法人名	社会福祉法人七峰会		
事業所名	グループホームアップル		
所在地	〒036-8302 青森県弘前市高杉字尾上山349		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの周りに果樹・野菜畑を作り生活の継続が出来る環境があり、育てる・収穫・食べる楽しみもある。また、一人ひとりの状態に応じた役割を持ち、生きがいと自信が持てるように支援をしている。認知症緩和活動として音読・計算など継続し実施しているが、それにとらわれず日常生活の中で生活リハビリや回想・コミュニケーションを重視し認知症の進行緩和に努めている。その他、歩行・機能訓練・体操など体を動かす機会も身体状況にあわせながら実施している。「水分・栄養・排便・歩行」をベースに自立支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

竹内式を法人で積極的に取り入れ、排泄はトイレで行なうこととしている。また、敷地内でさまざまな野菜等の栽培、ウコッケイの飼育など環境作りにも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日3回の引継ぎ時に確認しあっている。また、地域への会報による啓発活動を行って職員の意識を高め実践に取り組んでいる。	引き継ぎ時に理念を唱和し確認している。また、地域へ情報発信し地域の中での役割などを確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域交流の機会を設け、地域の方々と交流を深める機会を作っている。また、小学校の行事にも参加する機会を作ったり、なかよし会との交流や公民館祭りへも入居者の作品を展示し参加・見学する機会を設けている。	公民館祭りに入居者の作品を展示し、参加している。また、小学校の行事にも参加するなど、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に定期的に会報の回覧・掲示し、地域交流をした際に理解をしていただけるように取り組んでいる。また、運営推進会議への参加協力をして頂き理解を計っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており町会長・民生委員などに参加して頂き取り組み状況やサービス内容について報告し、ご意見を拝聴しサービス向上に繋げる場としている。	市役所と地域包括支援センターが相互に参加している。地域的に3町会の会長と民生委員が参加し、行事等について情報を得ている。ホームからは現状報告をし、意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要であれば連絡及び常に行き来が出来る機会を作り、サービスの質の向上に取り組む姿勢でいる。	介護保険の取り扱いなど随時質問し、意見をもらい、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修を実施しており、禁止の対象となる行為について、全職員が認識している。また、具体的な事例を挙げ、実践ケアに取り組んでいる。	ホームで勉強会を企画し、具体的な身体拘束の禁止事項などを理解するよう取り組んでいる。事業所内の玄関も鍵がかかっておらず、自由に出入りできるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について内部研修を実施しており、入居者の方々が安心して生活を送っていただけるよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について内部研修を実施しており、必要となる入居者がいる際には活用出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に明示しており、入居時に説明を行い、理解・納得のうえ同意を得ている。また、改定事項があった際は連絡・説明をし、理解・納得を図る体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、日常のコミュニケーションの中から意見を拾い上げたり茶話会や個別で意見を聞く機会をもっている。また、ご家族からは面会や、運営推進会議などで意見を聞く機会を設け、反映させている。	日々の茶話会などから入居者の意向を汲み上げ、家族からは面会時や運営推進会議で意見をいただけるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引継ぎ時間を中心にもいつでも職員の意見や提案を聞ける体制を作っている。その中で反映できる事は実施している。	ホーム独自の会議を月1回設け意見交換している。また、日々の引き継ぎを日に3回行い、その時点で気付いた事などを言い合える体制になっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日誌や口頭で職員からの報告・相談などを受け現状を把握し、必要に応じて適切なアドバイスを、話し合いをする場を設け、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度の研修予定計画を立て、個々の職員に対し必要な研修の機会を設けている。また、内部研修も実施している。ホーム全体で資格取得の勉強会も実施しており参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修での実習受け入れや研修などで交流する機会がある。また、同法人グループホームとの会議もありサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受け入れ時より、本人が困っている事や不安・要望などについて聞いている。利用開始後は信頼関係の構築と共にコミュニケーションの場を多く設け、本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に家族などが困っていることや不安・要望について聞いている。そして、常時施設の見学も受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族などの意見や想いを聞き、できる限り初期のニーズに応え、状況の変化に応じてカンファレンスを行い必要な支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者に対し尊厳をもって接し畑の野菜や料理・菓子など一緒に作り・食し同じ生活環境で共に暮らしていく中で支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族への報告・連絡・相談を密にしながら、本人の安心・安全を守り、本人の想いを大切にして、生活に心配なく生きがいのある暮らしが出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や相手側の希望があればいつでも面会などが出来る体制である。自宅への訪問やかかりつけの病院への受診、馴染みの店や理容所等の外出も支援している。	希望があれば行きつけの理髪店への送迎を行い、馴染みの関係性を支援している。また、併設のデイサービスに馴染みの友人が来る場合などは、ゆっくり話をする機会を設定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握しており茶話会や全体活動を通じて、一人ひとりが孤立しないよう職員が介入し、入居者同士の関わり合いをもつ事が出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同グループ施設への転居した後や入院した際も面会をしており本人や御家族との関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望・ニーズの把握に努め、ケアプランに反映できるものはプランに取り組み、生活に心配なく生きがいの持てる生活を継続できるように支援している。	日々の運動時や茶話会など、ふとした時に発する入居者の意向を大切に汲み上げ、介護計画や日々の支援に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を基にアセスメント表を使用し、これまでの経過を把握しできるだけ今までと変わらない生活が継続出来る様に支援している。また、日常会話からの情報や回想、ご家族の面会時に情報を得て対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のADLや日々の心身の状態にあわせ、その方らしい生活ができるよう職員が情報を共有し、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を踏まえ、意向を汲み取りながら、カンファレンス・職員の気付き・ミーティング・他職員との連携により計画を作成している。ご家族へは面会・アンケート・お便り・電話などで要望などを伺い、計画の作成に反映している。	日々の引き継ぎや申し送りノートなどを中心に、スタッフの意見や入居者の意向・希望を抽出し計画に反映させている。家族へはアンケートなどを利用し意向を確認し、計画作成に取り組んでいる	入居者の自発的視点でなく、介護者主体の言葉が随所に見られている為、入居者はどうなりたいかという視点でのプランニングに取り組むことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が日々の様子などについて個別に記録を残し、その情報を共有出来る体制である。また、随時ミーティングを行い実践の変更や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・役所関係・自宅訪問・買い物等入居者及びご家族のニーズに適した個別の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館祭りに参加し地域の方々と一緒に催し物を楽しんでいる。また、広報などで催し物があった場合は参加できる配慮をしている。本人の意向・必要性に応じその他の資源も活用する配慮をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ病院がある方は、現在も継続して受診を支援している。体調の変化等があった場合は報告し指示を仰いでいる。	基本的には馴染みのかかりつけ医に受診できるように支援している。定めのない方は嘱託医を紹介して受診支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、入居者の方の状態などを伝え、健康管理を行っている。また、助言など気軽に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した場合は、家族を交え早期退院を図ると共に情報の交換を行い安心して治療に専念できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針があり、それに基づいた対応をしている。	母体の法人施設に対応マニュアルがありそれに従い対応している。ホームで対応困難になった時は特別養護老人ホームを紹介するなどの対応をして、ホーム単独でなく法人一体で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受け、内部研修も行っている。また、マニュアルもあり随時見直しもしている。状態に応じた防止策も都度配慮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設や法人他施設が近くにあり、母体施設を中心に協力が得られるようになってきている。また、地域との協力体制も築いている。	母体施設が近接しており、非常時協力が得られるようにマニュアル作りがなされている。ホーム独自の訓練も行い、地域との協力体制も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声掛けや尊厳を持った対応を心掛けている。記録などの扱いに関してもプライバシー保護の観点から配慮している。	書類などは開いたままにせず、随時片づけるなどしている。声掛けも入居者が呼ばれ慣れた呼び名で声掛けをするが、時と場所などに配慮するように日々取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や茶話会等を通じて、思いや希望を表現できる機会を作り、個々の能力に応じた説明をし、理解していただけるよう心掛け、自己決定が出来るよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせニーズに対応した支援を行っている。また、季節行事や活動などの情報を提供し、本人の活動意欲の向上も支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場面に合わせた服装、静養、化粧など、自己決定できる支援を行っている。また、入居者が希望する理美容院への外出もその都度支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・食事・片付けは入居者と共に行っている。食事の際は状況に応じた声掛けをしている。好みに合わせた食事作りや菜園で採れた野菜など調理・食すなど楽しく活動できる支援をしている。	ホームには菜園があり、そこで収穫できた野菜を入居者と職員と一緒に調理している。また、食事の準備や後片付けも入居者の力に合わせて手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は母体施設厨房より栄養管理された食事が提供され、一人ひとりに合わせた量を配慮している。水分に関しては十分に摂取出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している入居者に関しても確認を行っている。また、介助を要する入居者については、状態に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を使用し入居者の排泄リズムを把握、声掛けや介助等支援している。おむつ・リハビリパンツの使用は行っておらず、自尊心に配慮しながら快適に過ごせるよう支援している。	リハビリパンツで入居された方も自立に向けた取り組みにより、現在は尿取パット使用者が2名のみの状況である。無理に行うのではなく、自尊心に配慮しながら快適な排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じてチェック表を使用し、排便間隔の把握に努めている。水分摂取の促し、活動量の向上、食事の工夫など排便を促す支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴について順番や時間帯、体調面など一人ひとりの希望やニーズに合わせて対応している。また、希望に応じてシャワー浴や足浴も随時対応できる体制である。	入浴やシャワー等24時間希望があればいつでも対応できる体制がある。入居者は1番風呂を希望する方が多いが、トラブルにならないよう調整し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量と夜間状況を考慮し、生活リズムを整えて安眠できるよう支援している。また、活動量が多く見られた際や疲労感、緊張感の程度に応じ休養できる環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については全入居者の服薬一覧表をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。薬を手渡す際は名前と時間を声に出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室清掃・食器拭き・館内外清掃など個々で役割を持っており、声掛けや自主的に行っている。また、畑や花壇、前庭での外気浴など自由に行ける環境であり気分転換となっている。趣味活動や余暇活動なども楽しみとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望によりドライブや買い物・余暇外出などの支援をしている。また、自宅訪問などの個別の外出も御家族の協力を得ながら支援している。	買い物など希望に沿って外出支援をしている。また、毎月自宅へ行く入居者もあり、家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。物品購入の際、本人に財布を渡し、レジ精算を自分で行えるよう支援している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自宅に電話したり、要望に応じて番号を調べたり、内容の聞き取りなどの支援を行っている。手紙についても、やり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関、トイレ、廊下などに入居者が育てた花や手芸品などを飾り、季節感を取り入れ、心地よく過ごせるよう配慮している。清掃時や必要に応じて換気を行い、温度・湿度管理を行っている。日差しについてはカーテンや天窓にフィルムを貼り対応している。	定期的に換気を行い温度湿度をコントロールし、快適に過ごせるように配慮している。リビングは個々に入居者が好きな所で過ごせるよう、小上がりやソファが随所に配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはTVやビデオ・ソファを設置し畳みスペースには将棋を楽しめる環境もある。廊下にはベンチを置き気の合った入居者同士が思い思いに過ごせるように工夫している。また、新聞・雑誌も常備しておりいつでも見れる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやテーブル・椅子等を持ち込んだり本人や家族との写真・自作の手芸品などで装飾し、一人ひとりに合った居心地のよいお部屋であるよう工夫している。	馴染みのタンスなどを持ち込んでおり、継続した生活環境を設定するように支援している。本人や家族の意見を参考に、家具などは入居者が動きやすく安全な配置を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳やフローリング、布団、ベッド、洗濯干し場、ベンチ、手すりなどを設置し、一人ひとりの能力、機能を生かし安全でできるだけ自立した生活が送れるよう工夫し支援している。		